

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクト演習1 (Project Seminar 1)		授業コード	C186601
担当教員名	池畑 義人、園田 一則、杉浦 嘉雄、吉村 充功		科目ナンバリングコード	
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	
必修・選択区分	建築コース 選択 インテリアデザインコース 選択 環境・地域創生コース 選択必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	集中講義なので、開講日時に気をつけてください。フィールドワークは週末に行います。また、夏期休業期に1泊2日のフィールドワークを実施しますので、参加できることを確認して履修して下さい。			
受講心得	フィールドワークでは団体行動が基本です。教員・現地指導員の指示に必ず従ってください。地域の皆さんは、この実習にあたって大変な負担を負っています。皆さんのために、いろいろして下さる地域の皆さんに感謝しながら受講してください。			
教科書				
参考文献及び指定図書				
関連科目	プロジェクト実習、地域再生論、環境・地域創造演習			

授業の目的	地方の今後のあり方を考えた場合、地域の独自性や特徴を活かした地域づくり・まちづくり、地域にあった建築物の設計・施工、歴史遺産や環境の保全・再生が重要となります。本演習では、大分県の基幹産業である農林水産業を中心とした地域の実態を現場見学・体験とワークショップを通じて肌で感じ、地域が直面する課題や問題点を正しく認識することで、建築学において必要になる地域づくりや地域再生のための計画立案に向けての基礎知識を習得すること、そのための感性を養うことを目的とします。
授業の概要	大分県内各地の農林水産業の現場を見学・研修し、実際に農業、林業、水産業体験やその集落の営みを観察するフィールドワークを実践的に実施します。見学・体験した地域及びフィールドから学び取ったこと、感じたことをまとめ、地域での生活と生業の現状について理解を深めるグループディスカッションを行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第 1 週 : ガイダンス</b> 授業内容・スケジュールの説明、受講条件などについて説明します。	
<b>第 2 週 : 第1回事前研修</b> 農業体験研修に先立って、事前レポートを元に、知識の整理を行うとともに、研修での目標設定を行います。	地域の抱える課題に関する調査をする。
<b>第 3 週 : 第1回研修【農業体験・地域環境維持活動と交流会】-1</b> これから、3回の授業では豊後大野市大野町「ふるさと体験村」及び周辺地域において、農業実習・地域環境維持活動を行います。この時間は、グループに分かれて諸注意を受け、現地の方のお話を聴きます。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 4 週 : 第1回研修【農業体験・地域環境維持活動と交流会】-2</b> 現地の田畑や山林で作業を体験します。作業の内容は、天候などによって異なりますが、主にイノシシなどの害獣から田畑を守るための作業や草刈り、樹木の間伐などを行います。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 5 週 : 第1回研修【農業体験・地域環境維持活動と交流会】-3</b> 作業の残りを実施するとともに、終了後は作業をふり振り返りながら、反省点などを話し合います。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 6 週 : 第1回事後研修</b> 第1回の研修で得たことをグループディスカッションでまとめます。また、次回の研修に向けた改善点をまとめます。また、レポートを課し、振り返りを行います。	農業体験の反省と課題を明確にしていく。
<b>第 7 週 : 第2回事前研修</b> 次回の農林業体験研修に先立って、事前レポートを元に、知識の整理を行い、研修での目標設定を行います。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 8 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-1</b>	

これから10回の授業では、第1回研修と同じ現地においてチームに分かれ、農業・林業体験、地域環境維持活動研修のフィールドワーク及び地域の方との交流会を1泊2日で実施します。宿泊形式をとることで、集団生活を通じたところの力や社会人基礎力を育成するとともに、地域の良さや課題を実体験します。この時間は、諸注意を聞くとともに、自分の設定した目標を再確認します。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 9 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-2</b> ふるさと体験村周辺の整備作業を通じて、役割分担やチームビルディングについて再確認します。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 10 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-3</b> 第1回研修の農業体験で植え付けなどを行った野菜等の収穫、米の収穫に向けた準備等を行い、季節に応じた地域の農業の現場を理解します。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 11 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-4</b> 山林での間伐、枝打ちなどの林業体験を通じて、建築材料でもある木材の生産現場を理解します。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 12 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-5</b> 受講者全員で食事の準備をして、役割分担の重要性を理解するとともに、交流をします。地域の食材を使用し、地産地消の意義を理解します。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 13 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-6</b> 現地の人から地域の昔の様子や現在置かれている状況について講演を受けます。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 14 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-7</b> 宿泊研修2日目の授業になります。農山村の生活を体験するため周辺を散策するとともに、朝食づくりでチームの役割分担を再確認します。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 15 週 : 第2回研修【農林業体験・地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-8</b> 前日とは異なる農林業の作業、地域環境維持活動を体験し、更に幅広い知識を習得します。	実習における学習目標を設定する。
<b>第 16 週 : 第3回事後研修と総括</b> 事後レポートを作成し、第3回の研修で得たことをグループディスカッションでまとめます。また、本授業で得たことの整理を行い、本授業をまとめます。	
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式 「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式 「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング 「アクティブ・ラーニング科目」
<b>地域志向科目</b>	カテゴリー II : 地域での体験交流活動を教育内容に含む科目
<b>備考</b>	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①環境や地域の問題に積極的に関わる
<b>【知識・理解】</b>	②大分県内における1次産業（農林水産業）の現状と位置づけを実体験を通じて理解する ③中山間地域と都市部（大分都市圏）の関係性、森里海のつながりを理解する ④コミュニティの重要性について理解する ⑤林業体験を通じて、建築材料の生産現場を理解する
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	⑥地域の皆さんに話を聴いて、質問をすることができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	⑦新しい地域のあり方について考えることができる。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		<b>20点</b>		

<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		30点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		20点	10点

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	事前/事後研修において、レポート課題が出題されます。また、このレポートに関しては口頭試問も実施されます。これらの内容について、総合的に判断して評価を行います。
発表・その他 (無形成果)	宿泊研修が終わった後、学習内容について発表を行う予定です。